

今月のトピック

政治

◆10月2日解散総選挙の事前情報まとめと選挙結果

経済

◆ブルガリアの天然ガス状況（調達・蓄積の現状および市場動向）

※月報は、ブルガリア各種メディアの報道等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

政治

◆10月2日解散総選挙に関する事前情報まとめ

▶10月2日の解散総選挙は、昨年11月に実施された第47回国民議会選挙の結果発足したペトコフ内閣（※）の任期満了前の退陣を受け実施される解散総選挙。昨年4月以降4度目の国民議会選挙であり、3度目の解散総選挙。23党・6連合が参加。

（※変革党を中心としつつ、左派から右派までを包含する4党による連立内閣。2021年12月13日発足、2022年6月22日政府不信任決議可決（辞表提出）、同8月2日退陣。）

▶一部を除き、主要政党の選挙前プログラム上では、内政・外交政策共に大きな争点はなく、対立軸は見えにくい状況であるが、国民の社会的・経済的不安を踏まえ、いずれの政治勢力も、エネルギー供給源多様化と社会福祉政策・経済政策を優先事項に掲げる。なお、再生党（ナシヨナリスト）は、EU・NATOを中心とする外交方針に異を唱え、ロシア他諸国との強固な関係構築が重要とし、北マケドニアのブルガリアへの統合等独自の主張を掲げている。

▶事前の世論調査結果からは、汚職撲滅や脱GERB型政権運営モデルが有権者の関心の中心となった昨年11月の選挙時とは異なり、今次選挙に際しては、ウクライナ情勢、経済・エネルギー危機、長期に亘る政治危機を背景に、インフレ状況の収拾、エネルギー価格是正、貧困状況の改善等が国民の主要関心事項である様子が伺える。また、世論調査の結果、国民の2／3が、多少の政策上の妥協を経てでも正式内閣の発足を望んでいることが明らかとなっている。同時に、選挙疲れと選挙後の内閣発足への期待値が低いこと等から、投票率は低下すると見込まれている。

▶9月末の選挙直前時点において、4%の足切りをクリアし議会入りすることが確実と見られていたのは6党（①GERB・UDF連合、②変革党、③MRF、④BSP、⑤再生党、⑥DB）。これに加え2党（台頭党及びTISP）の議会入りの可能性が残されている状態。

（※各政党・連合略称：

「欧州の発展のためのブルガリア市民」（GERB）

「民主勢力同盟」（UDF）

「変革を継続する」（変革党）

「ブルガリアのための社会党連合」（BSP）

「権利と自由のための運動」（MRF）

「民主的ブルガリア」（DB）

「こんな国民もいる」(TISP)

「ブルガリアの台頭」(台頭党)

▶単独過半数を獲得できる見込みの政治勢力はなく、選挙後の連立の組み合わせについては、予測困難な状況。組閣不成立となり、再度の解散総選挙となる可能性も少なくないと見られている。

◆10月2日解散総選挙結果(※当館注：10月のニュースとなりますが、事案の性質上9月号に含めさせていただきます。)

▶10月2日に行われた解散総選挙に関し、5日、中央選挙委員会(CEC)は次のとおり最終結果を発表した。7党が議会入りすることとなった。

1 投票率等

(1) 投票率：39.40%

(2) 有権者：6,602,990人、投票者：2,601,969人

2 各党・連合得票率及び議席数(※=前連立与党)

GERB・UDF：25.33%(67議席)(前議会：59議席)

変革党※：20.20%(53議席)(前議会：67議席)

MRP：13.75%(36議席)(前議会：34議席)

再生：10.18%(27議席)(前議会：13議席)

BSP※：9.30%(25議席)(前議会：26議席)

DB※：7.45%(20議席)(前議会：16議席)

台頭党：4.36%(12議席)

TISP※：3.83%(0議席)(前議会：25議席)

経 済

◆ブルガリアの天然ガス調達状況

▶ギリシャ＝ブルガリア間を結ぶインターコネクター(IGB)が10月1日に正式開通し、ラデフ大統領主催の下、欧州委員会委員長をはじめ、アゼルバイジャン・ギリシャ・セルビア・ルーマニア・北マケドニアらの首脳が参加した盛大な式典がソフィアで催された。

このIGBの開通により、アゼルバイジャンから年間5億m³のガスがブルガリアへと供給されることとなる。また、アゼルバイジャンからの供給量を倍増させるべく、ブルガリア政府がアゼルバイジャンへ更なるアプローチを行っているとの報道があった。

▶米国LNG船からの天然ガス供給については、LNGタンカー1隻分の確保に留まったままであり、タンカー追加の交渉は進んでいない。また、液化LNGガスをガス化する港湾スロット容量の確保も併せて進んでおり、現在建設中のギリシャ・アレクサンドロポリス港のブルガリア用港湾スロット容量を5億m³から10億m³に倍増させる決定している。これにより、ロシアからのガス供給停止が長期化した場合のリスク分散がさらに進むこととなる。

◆ブルガリアにおける天然ガス蓄積状況

▶EUによる加盟各国へのガス貯蔵容量依頼（10月1日までに各国貯蔵容量の80%、11月1日までに各国貯蔵容量の90%）に対し、9月末時点でのブルガリアのガス貯蔵量は75%強にとどまった。引き続き、ガスの貯蔵を進めている状況ではあるが、EU全体平均の貯蔵量（9月末時点で85%強）に追いついていない状況である。

▶ブルガリア唯一のガス貯蔵施設チレン貯蔵施設のガス貯蔵容量は5.5億m³である。現在、10億m³まで容量を拡大させるために資金調達を行っているが、完成までのスケジュールは見えていない。

◆ブルガリアにおける天然ガス不足の影響

▶9月の天然ガス価格は8月のガス価格より約19%上昇し、最終的に353.21BGN/MWhとなった。10月1日のインターコネクター開通後、天然ガスの価格の高騰に歯止めがかかることが期待されており、今後のガス価格が注目されている。

指標	月／四半期(Q)
GDP 成長率	+4.0%(Q2・暫定値):年率換算)
消費者物価指数	+12.6%(8月:前年12月比) + 17.7%(8月:前年同月比)
失業率(登録者数)	4.3%(8月)
公的債務残高/GDP(含む国及び地方)	22.9%(暫定値)(Q1時点)

※ブルガリアのマクロ経済指標は、ブルガリア国立銀行HPよりご覧になれます
(<https://www.bnb.bg/Statistics/StMacroeconomicIndicators/index.htm?toLang=EN>)。